

幼い子どもがいる夫の育児、家事への参加頻度が高まっていることが、ベネッセ次世代育成研究所(東京)の調査で分かった。研究所は「男性が子育てに積極的に関わる『イクメン』ブームや共働き家庭の増加が、夫の参加を後押ししている」と分析している。

調査は2011年11月、妊娠期から2歳までの第1子がいる夫婦を対象に郵送で実施。4737人の男女から回答を得て06年の前回

## 「イクメン率」着々増加 家事参加頻度も向上

調査と比較した。

夫の育児参加の頻度を「週3回以上」「週に1~2回」「ほとんどしない」に分けて5年間の変化を見ると、「子どもがぐずったときに落ち着かせる」で週3回以上参加が47%と15%増え、ほとんど参加しない人は6%減って16%に。「寝かしつけ」(週3回以上)も8%増の31%、「おむつ替え・トイレ」(同)が7%増の58%だった。

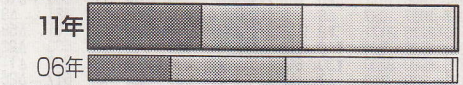
夫が家事を手伝う傾向も強まり、週に最低1回は食事の用意・片付けに参加する夫が59%で、前回より6%増えた。同様に掃除は45%で8%増、洗濯も36%と9%増。出産に立ち会った夫は63%で、7%増加した。

### 夫の育児参加 ※ベネッセ次世代育成研究所調査

●ぐずったときに落ち着かせる 分からない・無回答



●寝かしつけ



●おむつ替え・トイレ

